地域を支える

農業人 WAZABITO



PROFILE

加藤（かとう） 悠太（ゆうた） さん

KATOU YUUTA

38歳

愛西市立田町

牛を思いやる酪農スタイル 木曽三川の輪中で牧場経営

愛西市立田町で、約150頭の乳牛を管理して酪農に従事する加藤悠太さんは、加藤牧場の3代目として両親や従業員らの計7名で牧場を経営し、「明治おいしい牛乳」に使用される牛乳を、指定団体を通じて出荷しています。

酪農の魅力について「牛は可愛くて、愛情を込めて世話をすれば応えてくれるところです」と語る加藤さん。言葉の通り、牛にできるだけストレスを与えないようにするための快適な環境作りに注力しています。牛舎内は、大型の扇風機を設置し、さらに設定温度以上になるとミストが噴射される仕様を導入しています。また、牛達が休息しやすいように敷料を整えるほか、虫と鳥の侵入を防ぐネットも施して環境を整えています。他にも、一回の搾乳量を抑えることで負担を軽減し、産次数を増やす「長命連産」に取り組んでおり、牛の更新回数や飼料費を抑えつつ、牛が健康で良質な生乳を効率よく生み出せるように努めています。

加藤牧場では、牛ふんに他の材料を加えて攪拌してから発酵させた堆肥の販売も行っています。配達にも対応しており、レンコンや水稲、花やイチジクなどを栽培する農家の方にご利用いただいています。そのため、一日の作業としては、早朝に牛舎の掃除や搾乳、牛の世話をした後に堆肥の配達を行い、夕方からも餌の準備や夜間の見回りなど多くの業務をこなしています。加えて、必要に応じて牛の助産も行い、多くの牛の命と向き合う、休む間もない毎日です。また、地元のオペレーターへ牛ふん堆肥を提供し、飼料用トウモロコシを生産してもらう耕畜連携にも取り組んでいます。

今後も多くの牛を管理していくためには人材の確保が課題であり、若手の従業員を雇用していくことで安定した運営に繋げたい加藤さん。最後に「昨今は肥料価格も高騰していますが、良い作物は良い土壌から作られるため、ぜひとも牧場の牛ふん堆肥を使ってみて欲しいです。また、小売店などで牛乳を見かけた際は、手に取って購入していただき応援してもらえると嬉しいです」とメッセージをいただきました。



牛舎を管理する加藤さん



飼葉を食べる牛達